

日本学術振興会第5期中期目標・中期計画期間における  
国際関係事業の戦略的展開に向けた総合指針

【はじめに】

○本総合指針は、令和元（2019）年5月に策定した「日本学術振興会第4期中期計画に係る国際戦略」（以下「旧国際戦略」という。）を全面改訂するものであり、第5期中期目標・中期計画期間（令和5（2023）年4月1日から令和10（2028）年3月31日まで）における日本学術振興会（以下「JSPS」という。）の基本的な指針として定めるものである。

第5期中期目標には、「振興会が取り組む事業全体を俯瞰し、国際関係事業の今後のあり方を示す総合指針を策定し、これに基づき戦略的に事業を行う」とされており、本指針がこれに該当する。

○JSPS は学術の振興を目的とする我が国唯一の独立した資金配分機関（ファンディングエージェンシー）であり、我が国のみならず、世界の学術の振興に積極的に責任を果たすことが求められる。

その創設以降、JSPS では学術国際交流事業を中核事業のひとつに位置づけ、我が国の学術研究の海外展開と国際連携を支えてきた。新型コロナウイルス感染症の世界的拡大により、互いの往来が極めて困難となった時期にあっても、我が国の学術研究の国際的な展開の継続・発展のため、事業を可能な限り柔軟に運営してきた。

○学術研究は、基本的に研究者個人の自由な発想に基づくものではあるが、最先端の知の創造のためには、経験や背景、発想の異なる多様な研究者や組織が国境を越えて交流・協働することが極めて重要である。これは、学術国際交流事業に限らず、JSPS の業務全体に言えることでもある。

○世界的にはグローバル化がますます進み、国際的な頭脳循環がさらに活発になり、競争も激化している。そうした中で、我が国の研究者が世界の学術研究をリードしていくためには、我が国の研究者・研究機関が、国際的な場に挑戦しやすい環境のもと世界レベルの研究ネットワークの中で切磋琢磨し続けられること、また世界の優秀な研究者を惹きつけ国際的な研究ネットワークを強固にしていくこと、そしてその好循環を生み出すことが重要であり、JSPS としてもこれらにより積極的に貢献していく必要がある。

## 【現状と課題】

- 第4期中期目標期間業務実績に関する外部評価では、JSPS が「事業の国際化と戦略的展開のために、理事長直轄の国際統括本部を置き、『日本学術振興会第4期中期計画に係る国際戦略』を策定し、着実に業務を遂行していることは評価できる」とされた。その一方で、JSPS の国際化にかかわる取組が見えにくいことや、情報発信の不足といった点も指摘された。さらに、国際関係事業に関する企画立案体制のさらなる強化、海外の関係機関との連携、海外動向に関する情報収集について、その強化の必要性が示されている。
- 平成30(2018)年4月の組織再編に合わせて新設された国際統括本部は、国際的視点に立って国内外の垣根なく事業を推進するため、組織横断的な取組を進める上で一定の役割を果たしてきたといえる。他方、近年の感染症の世界的な拡大や国際紛争等に見られるように、変化の激しい国際情勢の影響を免れ得ない中で、JSPS として、如何に研究者に寄り添いつつ機動的な対応ができるかが問われることにもなった。今後は、中長期的な視点のもと、国内外の状況も勘案しながら、各部署間・各事業間との連携を密に図りつつ、より効果的に国際関係事業を遂行していくため、国際統括本部そのものの在り方についての見直しも含めた更なる体制強化が必要となっている。
- 国際関係事業の中でも、学術国際交流は JSPS の中核事業のひとつと位置付けられてきており、これを通じて長年にわたり世界各国の主要な学術振興機関との間で相互理解と協力関係を構築し、信頼関係を築いてきている。これは JSPS の有する大きな強みであり、こうした世界各国とのチャンネルを確実に維持すると同時に、最大限に活用しながら、国際的な研究基盤の構築・強化を図っていくことは、引き続き JSPS に求められる重要な役割である。
- さらに、グローバル化の更なる進展や複雑な国際情勢等を背景に、JSPS においても学術研究をめぐる最新状況を踏まえつつ、適切に対応することが求められている。特に近年注目を集めている多様性、衡平性、包摂性 (Diversity, Equity and Inclusion)、オープンサイエンス、生成 AI の活用、研究の持続可能性 (sustainability of research) や、これまでの議論の蓄積がある研究評価の在り方など、学術研究をめぐる世界共通の様々な課題につき、政府レベルでの議論も踏まえながら、JSPS としても広域的確な情報収集に努め、国際的な潮流づくりの議論に積極的に参画していくことが極めて重要である。
- 国際的な研究ネットワークの構築・強化に当たっては、情報発信の強化も必要であ

る。これまで、JSPS では各種広報資料、ウェブサイト、メールマガジン、SNS 等を活用して、可能な限り複数の言語で情報発信を行ってきた。また、海外 9 か国 10 か所にある海外研究連絡センターでは、海外の学術振興機関や研究者等を対象とした JSPS の活動や日本の学術研究に関する情報発信に力を入れている。一方で、国際関係事業について世界における日本の研究力プレゼンス向上への貢献が十分でないという指摘や、現在世界各地に 20 ある同窓会をはじめ国内外の JSPS 事業経験者等との幅広いネットワークがあるにもかかわらず、それを情報発信に必ずしも生かしていないといった課題も存在する。あらゆる分野に支援を行い、長年にわたり世界各国の学術振興機関との協力関係を築き、また国内外の多くの研究者とつながりを有する JSPS だからこそ、より積極的かつ組織的な情報発信を推進することで、JSPS 自身の存在感をより強固なものにするとともに、国際的な研究コミュニティにおける我が国のプレゼンスの向上に資することが求められる。

○このように、JSPS には多様な場面でその役割を果たすことが期待されている。海外の学術振興機関から JSPS との連携強化への希望が引き続き多く寄せられていることは、その証左ともいえる。一方で国際関係事業は、その性質上、近年の物価上昇や為替変動による影響を強く受けており、採用・採択された研究者・研究機関等からも、打開策の検討を求める声が聴かれる。こうした声に柔軟に対応していくためには、必要な予算を確保しつつも、効率的・効果的に各事業を実施し、我が国を代表する学術振興機関としての責任を果たしていく必要がある。

#### 【事業展開の基本的な方向性】

以上を踏まえ、以下では、研究者の自由な発想に基づく研究活動を支援するというボトムアップの考え方を基本としつつ、第 5 期中期目標達成のため、JSPS における国際関係事業に関する取組の方向性を示す。

#### 1. 国際的な共同研究と研究環境の国際化の推進

○我が国の研究者が国際的な環境において世界をリードし、高い水準の研究活動を実施できるよう、国際的な共同研究に対する支援を強化・充実する。

科学研究費助成事業において、国際共同研究を加速するための仕組みが導入されているところ、これを着実に実施していくとともに、文部科学省とも連携しつつ必要に応じ改善を検討していく。

海外の学術振興機関と協調して実施する国際共同研究への支援については、リードエージェンシー方式の活用をはじめとした効率的・効果的な運営を行う。

○我が国の大学・研究機関等における研究環境の国際化を推進することや、国内外の

優れた研究者を我が国に惹きつけ、国際的な研究者ネットワークを強化することなどにより我が国が国際頭脳循環において重要な位置を占めることは、我が国の研究力強化にとどまらず、一国では解決できない複雑化した社会課題に対応する上でも重要である。このような観点から、外国人研究者招へい事業の更なる充実を図り、海外の優秀な研究者に対し、様々なキャリアステージに応じた共同研究の機会提供を促進する。また、世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）においても、大学等研究機関にシステム改革を促すとともに、高い研究水準を誇る世界的な研究拠点形成の支援や成果の横展開の更なる効果的实施に努める。

## 2. 学術国際交流事業の効率的・効果的な運営

○JSPS の学術国際交流事業は、学術研究の将来を担う国内外の研究者のネットワーク構築支援に大きな役割を果たしているとともに、事業実施に伴う海外の様々な学術振興機関との関係の維持・強化は、強固で双方向の交流を可能にする国際研究基盤の構築・発展に不可欠なものである。したがって学術国際交流事業は今後も継続・発展させていくことが肝要である。

他方で、限られた人的・財政的資源を有効に活用しつつ、社会情勢や研究現場における具体的なニーズの変化等に柔軟に対応していくことも必要であり、引き続き、各事業の整理・統合や重点化を含めた不断の改善を進めていく。

○併せて、研究者・研究機関側の負担軽減等の観点から、学術国際交流事業以外の事業とも連携を図りながら、申請・審査・実施・報告等に係る書類の電子化をはじめとするプロセス全体の合理化を推進する。

## 3. 次世代の研究者の養成

○我が国の学術研究の将来を担う若手研究者が、継続的に研究能力を向上させ、国内外で活躍していくためには、国際的な研究環境の中で研さんを積むことが欠かせない。我が国の若手研究者が国際頭脳循環の流れに乗ることを推進する観点からも、引き続き海外特別研究員事業等、海外で研さんを積むための事業のより一層の充実を図る。

○加えて、我が国の優れた若手研究者が、将来的にリーダーとして活躍するため、世界各国の様々な背景を持つ同世代の研究者と交流し、互いに切磋琢磨することで、学術的・国際的視野を広げることは極めて重要である。このため、HOPE ミーティングや先端科学（FoS）シンポジウムといったシンポジウムやセミナー等、若手研究者に対する国際的な研さん機会の更なる充実を図る。

#### 4. 国際的な課題に対応できる組織体制の強化

- 学術研究を支援する機関である JSPS としては、あらゆる事業の展開を図る上で、国際的な視点を持つことが必須になっている。  
それに伴い、職員の国際業務遂行能力の継続的な向上が不可欠であり、組織全体として国際的感覚の醸成と人材育成を強化していく。また国際統括本部については、組織としては発展的に解消し、その機能をより効果的に果たすための横断的な体制を整備する。
- 海外研究連絡センターの存在は、JSPS が国際的な視点を持って活動を展開するにあたり非常に有利である。海外研究連絡センターが、今後も引き続き日本の学術研究を世界に発信するプラットフォームとして、また、特に我が国の若手研究者による海外展開及び海外の研究者を日本に招へいする際の支援拠点として、その機能を最大限に果たせるよう、各センターのミッションを明確化した上で、設置数・場所・設置形態を含めた活動の全般的な在り方に関する改善・強化策を検討・実施する。

#### 5. 様々なチャンネルを通じた情報の収集とその活用・発信

- 国内外における学術研究に関する動向や JSPS の諸事業に関する情報及び成果について、海外研究連絡センターをはじめ、学術情報分析センター等において適切に把握・分析し、その知見を JSPS の国際的な取組の改善・強化に反映していく。
- JSPS 事業による来日・助成を経験した外国人研究者等をはじめとする海外研究者コミュニティは、我が国の学術研究における国際交流の強化・拡大の土台となるものである。同時に海外における JSPS の強力なサポーターとして、各国における重要な情報源であるのみならず、我が国の優れた研究活動や JSPS の活動に関する情報発信に大きく貢献している。これら海外研究者コミュニティとのネットワークは継続的に構築・強化する必要があり、各国で組織されている同窓会活動への支援を続けていく。またそのフォローアップとしての再招へいや共同研究支援、日本の研究機関への定着促進、JSPS の有する国内研究者とのネットワークとの連繋を含め国内外の研究者間での人的・知的交流に資する対面交流の場の提供など、関連する様々な取組を総合的に展開し、国際的な頭脳循環の推進に貢献する。加えて、特に海外研究連絡センターを通じ、海外における日本人研究者同士の連携を支援することで、在外日本人研究者ネットワークの強化・拡大を推進するとともに、それを活用して各国における研究者を巡る状況の把握と JSPS の活動の発信に努める。
- 海外の様々な学術振興機関との連携は、情報収集・発信という観点からも極めて有益である。海外研究連絡センターや各種の国際会議等を通じた情報・意見交換、事

業実施に伴う日常的なやり取り等、様々なレベルでこうした海外の機関との関係の維持・強化に取り組んでいくとともに、学術振興機関長会議への積極的な参加等により、JSPS 自身の国際的プレゼンスと、我が国の学術研究の存在感向上を図る。

【終わりに】

上記の内容は、国際関係事業に関する第5期中期目標期間における方向性を示したものであり、個別の取組については、予算面を含め、必要に応じて文部科学省とも調整しながら、順次具体化を図っていくことになる。

また、国内の大学・研究機関、関係する法人等との連携も、我が国の学術研究の発展と国際的な頭脳循環の推進にとって有意義であり、適宜これを進めていく。